

PMDA 医療安全情報

(独)医薬品医療機器総合機構



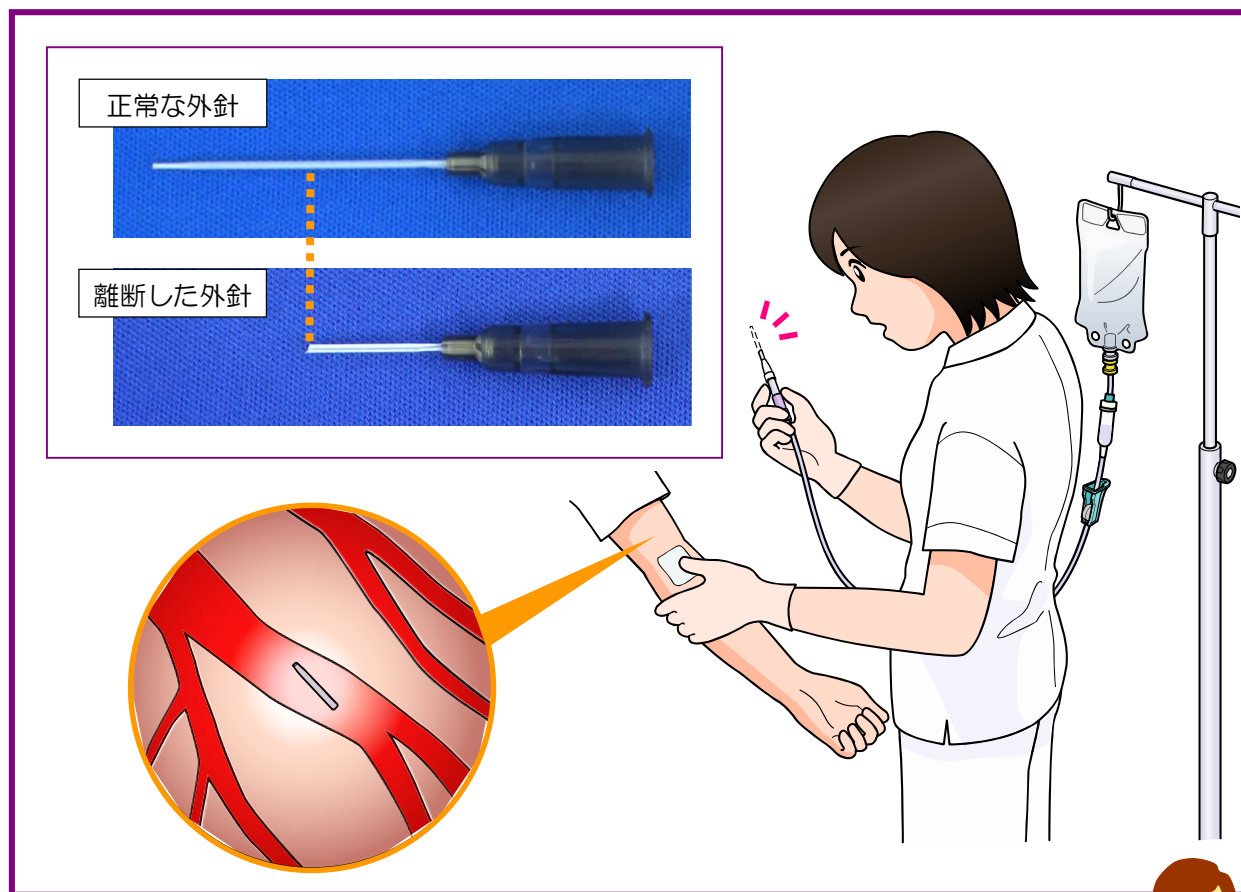
No.45 2014年 8月

静脈留置針操作時の注意について

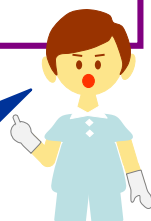
POINT 安全使用のために注意するポイント

(事例) 静脈留置針を抜去する際、外針(プラスチック製)が離断し、離断片が血管内に遺残してしまった。

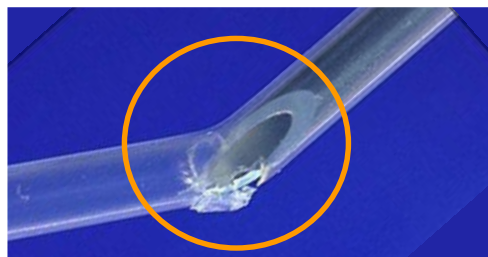
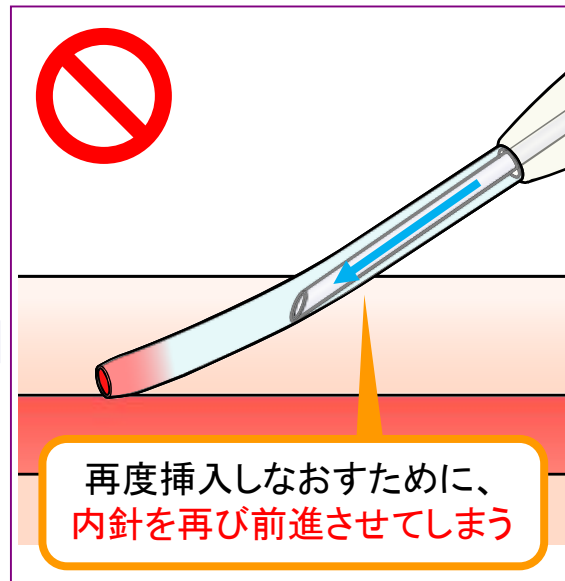
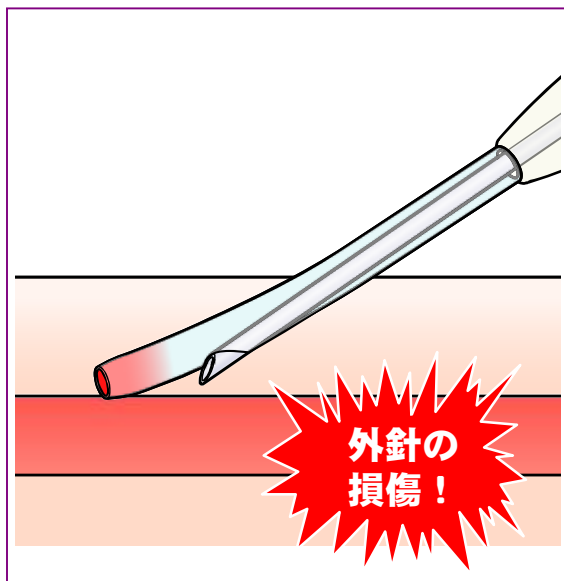
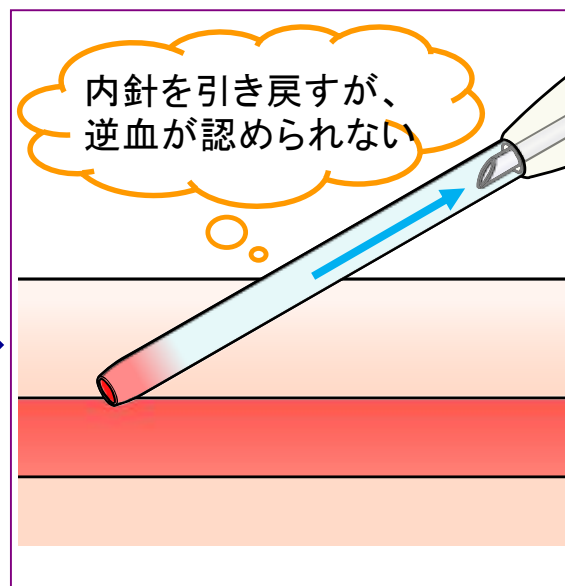
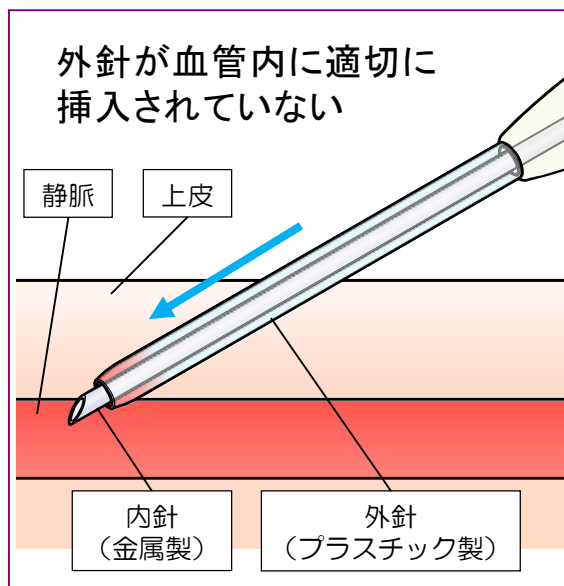
1 静脈留置針の留置時の注意点



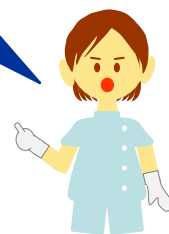
挿入の際に外針(プラスチック製)を損傷していると、**抜去時に離断**してしまう可能性があります。



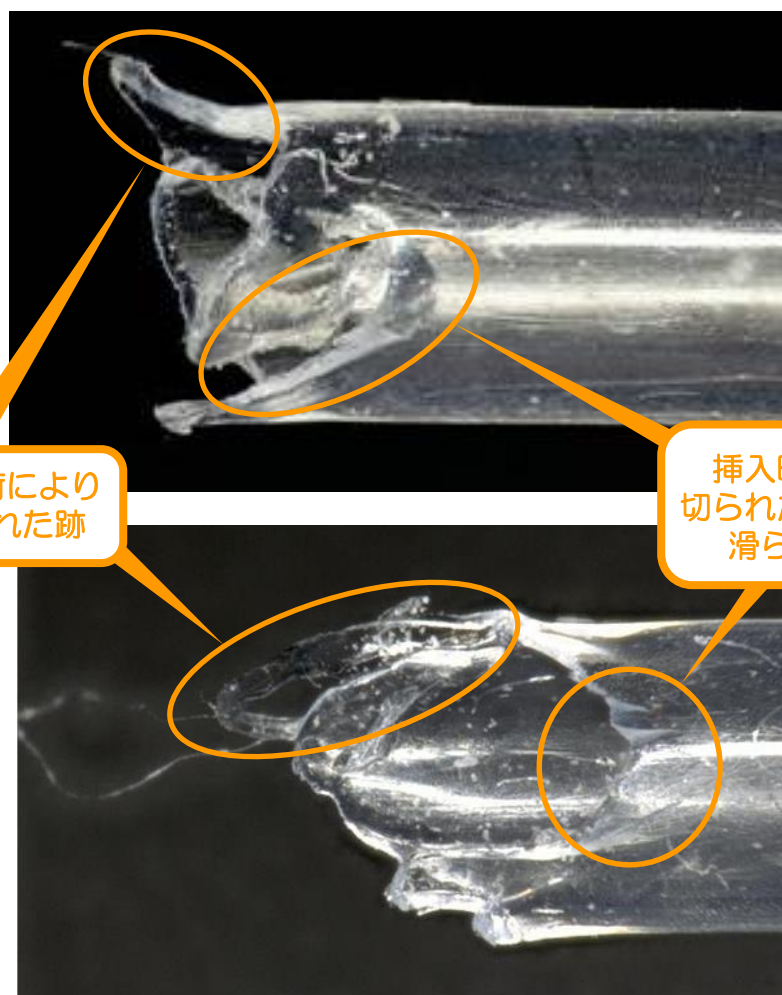
穿刺時の外針損傷のメカニズムの例



穿刺操作の際、外針内で内針
を前進させてしまうと、内針
の針先で外針を損傷してしま
うことがあります。一度内針
を引き戻したら、再び前進さ
せないよう注意しましょう。

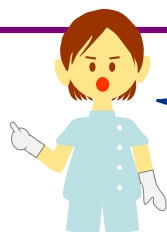


離断した静脈留置針



抜去時の負荷により
引きちぎられた跡

挿入時に内針で
切られたと思われる
滑らかな傷跡



写真のように、内針の針先により損傷を受けた外針には、**滑らかな傷跡**があります。抜去時の負荷により損傷部を起点に外針が裂け、**離断**に至ります。

本情報の留意点

- * このPMDA医療安全情報は、公益財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書及び薬事法に基づく副作用・不具合報告において収集された事例の中などから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が専門家の意見を参考に医薬品、医療機器の安全使用推進の観点から医療関係者により分かりやすい形で情報提供を行うものです。
- * この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
- * この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品、医療機器の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。